

# 稲作情報

## No.10 「穂肥対応～飽水管理」

J A えちご中越 さんとう営農センター  
TEL: 0258(41)2887

令和6年 7月19日

**注意** コシヒカリの葉色が急激に低下しています!!  
葉色を再確認→コシヒカリ2回目穂肥を「確実に施肥」しましょう!!

コシヒカリの生育状況 (7月18日調査: 地区別平均値)

地区	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
寺泊	5/7	87.2	416	12.3	35.2
和島	5/8	89.2	456	12.5	34.0
出雲崎	5/5	87.4	327	12.7	33.4
与板	5/11	86.3	358	12.1	33.9
三島	5/5	87.1	354	12.3	31.7
越路	5/12	87.7	463	12.4	36.0
平均	5/8	87.7	416	12.4	34.5
7/20 指標値	5/10	79.0	410	11.9	34.0

7月上旬中頃にぐずついた天候(少照・多雨+高夜温)が続いたことから、草丈が急激に伸長しています。一方で、葉色が急激に低下しているほ場が見受けられます。

### 【管内平均値と指標値の比較】

- ・草丈: 指標値比 111% 「長い」
- ・葉数: 指標差 +0.5 「早い」
- ・葉色: 指標差 +0.5 「並み」

1回目の穂肥を控えたほ場や一発元肥施肥量の少ないほ場では、葉色が急激に低下し、登熟期間の栄養凋落による品質低下が懸念されます!!

## 1. 後期栄養確保対策

出穂前の穂肥施肥で「登熟に必要な栄養分」を補充してあげましょう!!



**注意** ①6月前半から続く気温の高い気象傾向の影響により、水稻の栄養消費が大きくなっていること  
②穂肥時期の生育(草丈の急伸長+葉色の褪色鈍化)や天候不順により穂肥施肥が控えられていることから、急激に葉色低下しているほ場があります。7月下旬以降、昨夏と同様の高温気象が続く予想で、**栄養凋落～高温障害(白未熟の発生)**による**「品質低下」**が懸念されます!!

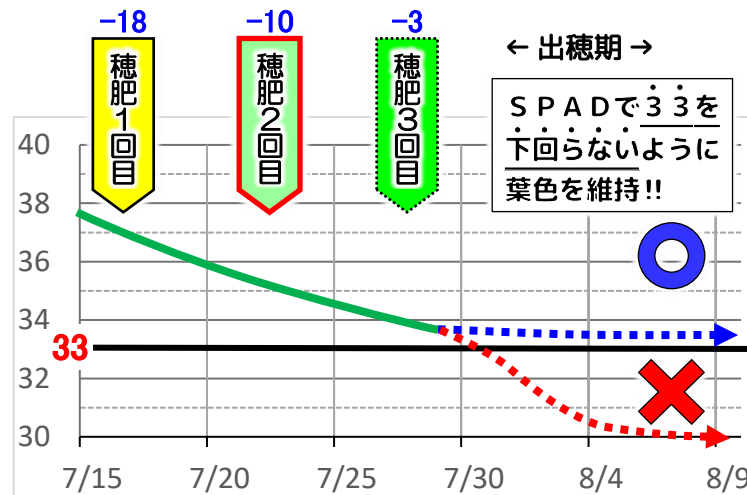
### (1) 2回目(出穂前10日頃)の穂肥対応:【分施肥系】

コシヒカリの2回目(出穂前10日)の穂肥時期を迎えています。栄養不足による品質低下防止のため、**出穂10日前の穂肥を確実に施用して下さい。**(窒素成分: 1~1.5kg 程度/10a)

- \*1: 出穂前10日以降の施肥は稈長の伸長=倒伏に影響しませんのでしっかり・確実に施肥します。
- \*2: 1回目穂肥が出穂前18日より遅れた場合、1回目穂肥の7日後を目安に2回目を施用します。

### (2) 出穂前10日以降の穂肥対応:【全量元肥体系・分施肥系 共通】\*注) 特栽米の施肥量基準

出穂期までに葉色が極端に淡くなる(コシヒカリの場合: SPAD 33以下になる)場合には、「出穂の3日前まで」に、生育にあわせて追加穂肥(N成分1kg/10a程度)を施用して下さい。



\*コシヒカリの節間はいつのびるの?(出穂前日数)

節位	伸長開始	ピーク	終了
第5節	-29	-26	-20
第4節	-23	-18	-13
第3節	-16	-10	-4
第2節	-6	-1	+3
第1節	-1	+1	+3

倒伏に影響する下位節間(第5節・4節)の伸長は、出穂13日前には終了しています。→**出穂前10日以降の施肥は、倒伏に影響しないので、しっかり施肥してネ!!**

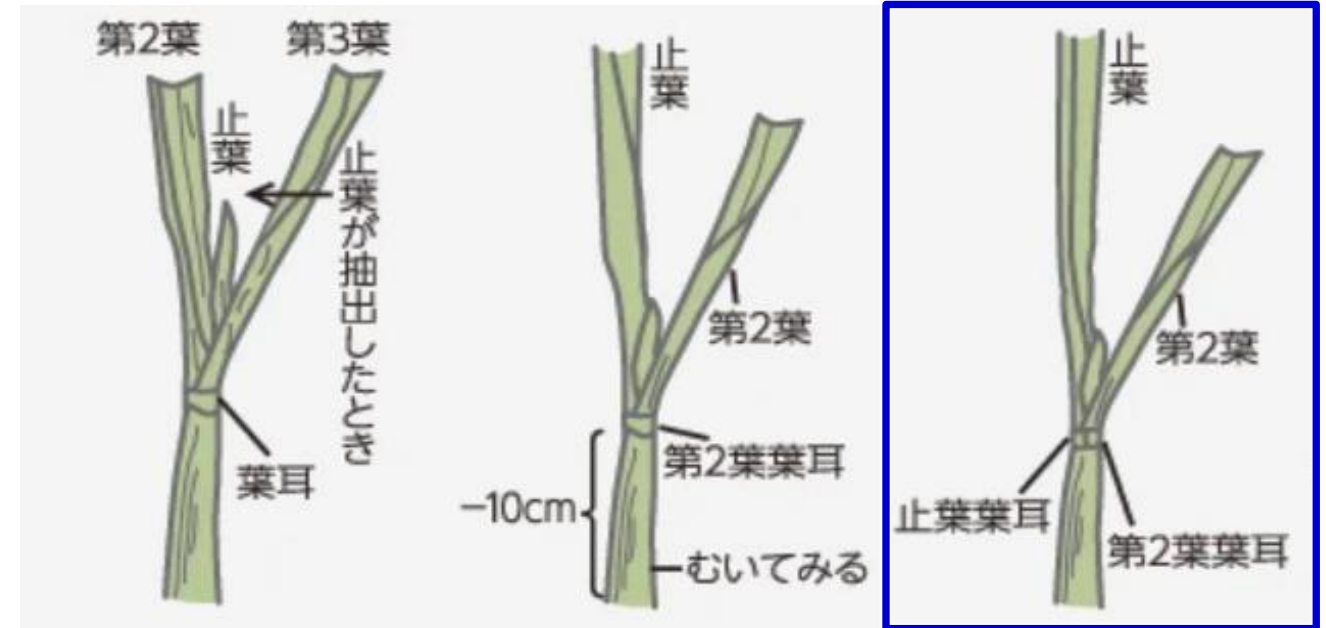
急激な葉色低下に注意!!

出穂期前の「しっかり穂肥」で登熟期間の栄養を確保しましょう!!



### (3) 止葉の出方で「出穂10日前」=②回目穂肥時期を診断しましょう!!

間もなくコシヒカリの2回目(出穂前10日)の穂肥時期となります。下図:「止葉の出方と葉耳間長」を参考に葉の付け根にある突起=「葉耳」を観察して、②回目穂肥の散布適期(止葉の葉耳とその下の葉の葉耳が並んだころ…葉耳間長0cm)を判断しましょう!!



水稻の出穂前最後に出る葉が止葉でその下から上位第2葉、第3葉となる…  
止葉が抽出し始めると出穂のおよそ18日前

止葉の抽出が進んだら葉鞘をむいてみる…  
葉耳間長-10cmで出穂のおよそ12日前

止葉の葉耳と第2葉の葉耳が重なったとき…  
葉耳間長±0cmで「出穂のおよそ10日前」→②回目穂肥の散布適期です!!

※トータル化学窒素成分が3.5kg/10aを超過する場合、有機100%穂肥(みらい有機831等)を施用してください。

### (4) 「出穂10日前」の葉色を診断して穂肥施肥量を決定しましょう!!

コシヒカリの登熟期間に高温気象が予想される場合「出穂期の葉色」= SPAD値が33を下回らないように穂肥施用することが、最も重要な技術対策となります。以下の手順で出穂10日前の葉色を診断し、②回目穂肥の施肥量を決定します。

- ① 上図(3)止葉の出方と葉耳間長を参考に、②回目穂肥時期を診断します。
- ② 止葉の葉耳と第2葉の葉耳が重なったとき(出穂10日前)に、SPADで葉色を測定します。
- ③ 測定されたSPAD値を右表の★出穂10日前SPAD測定値にあてはめ、N施肥量と穂肥施肥量を診断します。

\*例: 出穂10日前のSPAD値が32.0と測定された場合、必要となる穂肥N施肥量は1.490kg/10aとなり、越後の輝き有機50穂肥を施肥する場合、10aあたり施肥量: 12.4kgと診断します。

出穂10日前の葉色と穂肥施肥量「診断表」

出穂期 目標 SPAD 値	★出穂10日前 SPAD 測定値	②回目穂肥 N 施肥量 (kg/10a)	越後の輝き有機 50穂肥 施肥量 (kg/10a)
出穂期の SPAD 値が 33.0 を 下回らないように出穂期の 目標 SPAD 値を 「33.5」 に設定 すると…	31.0	1.807	15.1
	31.2	1.744	14.5
	31.4	1.680	14.0
	31.6	1.617	13.5
	31.8	1.553	12.9
	*32.0	*1.490	*12.4
	32.2	1.427	11.9
	32.4	1.363	11.4
	32.6	1.300	10.8
	32.8	1.236	10.3
	33.0	1.173	9.8
	33.2	1.109	9.2
33.4	1.046	8.7	
33.5 以上	1.000	8.4	

★注) 県認証特栽米 化学N使用基準量: 3.5kg/10a以下となるよう施肥設計してください。



## 2. 病害対策



こまめにほ場を巡回して、いもち病・紋枯病の発生状況を確認してネ!!



### (1) いもち病

6月下旬以降、いもち病に感染しやすい気象条件（多湿・湿潤）が続き、「葉いもち感染～穂いもちへの感染拡大」が懸念されます。葉いもちから穂いもちへ感染拡大する時期となりますので**上位葉での発生・病斑を確認したら、ただちに薬剤防除を実施してください。**

### (2) 紋枯病

高温・多湿の気象傾向が続き、紋枯病の多発生しやすい環境となっています。前年に多発生したほ場や発生しやすい品種では、梅雨明け以降の気温上昇でさらに病状・被害が進展しやすくなります。発病（発病株率：10%以上）が確認されたら、薬剤防除（バリダシン剤）を実施してください。

## 3. 斑点米カメムシ対策

向こう1カ月は「気温が高い気象予想」→カメムシ類の増殖・加害活動が活発となりそうです!!



**警戒! 7/10 新潟県内にカメムシ類の「多発生注意報」が発令!!**

### ① 水田内および水田周辺の雑草管理の徹底!!

発生密度の抑制・低減

### 斑点米カメムシ撲滅運動：第4弾!!

### ② 本田防除薬剤の適期散布

出穂の早い五百万石・ゆきみらい等は、防除適期となっています。

適正な水管理で、防除効果を高めましょう!!



無人ヘリ防除の除外区域 = 「粒剤・豆つぶ剤散布区域」では、品種ごと・ほ場ごとの散布適期：穂揃い期（出穂期の5日後～7日後）に薬剤防除を実施して下さい。

薬剤名	使用量	散布時の水管理
スタークル粒剤	3kg/10a	田面が湿った状態（飽水状態）～深い部分で3cm程度の浅水
スタークル豆つぶ	250g/10a	ほ場全体を3～5cmにしっかり湛水（漏水田等での使用×）



- 薬剤散布時・散布後の作業ポイント
- ① スタークル剤は、降雨により薬剤効果に“ブレ”が生じます。天候が安定している期間に散布して下さい。
  - ② 散布後に少量の降雨が予想される場合は、水尻をしっかり止めてヒタヒタ水の浅水状態で散布して下さい。
  - ③ 散布後4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は“落水やかけ流しはしない”で下さい。
  - ④ 薬剤散布後も、引き続き“イネ科雑草種子が結実しない間隔”での雑草管理を徹底しましょう!



## 農作業中の「熱中症」には、十分注意してネ!!

～～営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ～～  
次回稲作情報：8月上旬「生育状況、刈り取り適期予想、後期水管理」（予定）



# 豊かな水で育む「さんとう地区産米」



▶▶ 7月24日（水）～8月28日（水）◀◀

## 「飽水管理の徹底実践」強化月間!!

- ① 水稻は、出穂前の減数分裂期（出穂12日前）を最大として穂ぞろい期（出穂7日後）まで、**最も養水分を必要とする時期となります。**田面が白く乾きすぎないように『**飽水管理**』を継続・徹底しましょう!
- ② 水稻の出穂後（登熟期間）に、異常高温やフェーンに遭遇すると玄米品質の低下を招いてしまいます。  
→地区ごとの「揚水機場運転スケジュール」を確認しながら、『**気象変動に備えた水管理**』（こまめな入水・落水）の徹底に努めましょう!!

“SDGs な水管理”

“土が潤っている状態”を維持しましょう!!



毎週水曜日は…「水管理巡回 DAY」です!! →しっかり、水かけしてネ!!



自然に減水して、足跡や溝に水がなくなる前に再び入水します!!

JAえちご中越 さんとう営農センター ☎0258(41)2887	さんとう北営農センター	☎0258(74)3434
	さんとう営農センター 営農課	☎0258(42)4133
	こしじ営農センター	☎0258(92)5606